

平成27年度 鳥取商業高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

創立105年を迎えた歴史と伝統ある、県内唯一、商業学科のみの鳥取商業高校は、「鳥商教育のめざす姿」として、「ビジネス教育」「資格取得」「部活動」という3本の柱を据えつつ、最大の学校行事である「鳥商デパート」（注：企画から仕入れ、販売、決算までを生徒が主体となって行う実践型学習）を学校教育の集大成として、地域の産業経済界をリードし、活躍できる人材の育成を図っている。

特に、「ビジネス教育」においては、従来型の講義だけにとどまらず、積極的に外部人材を学校に招聘したり、学校外での学び（インターンシップや研修旅行等）も展開させるなどして、生徒に大きな刺激や成長の機会を与えている。卒業後に社会人となるための基盤が着実に生徒の中に形成されている。教職員は全校体制で進路指導に従事し、就職のみならず進学も含め、生徒の進路先決定は100%である。

以上のことは高く評価できる。また、加入率100%の部活動は全国レベルの部も数多くあり、文武両道を実現していることも、同様に高く評価できる。

今後も、同校の歴史や伝統を継承しつつ、社会の変化に柔軟に対応できる有為な人材を育成し、学校のプレゼンス（存在感）をより高めていっていただきたい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 教育活動における「3本の柱」のさらなる充実・活性化を望む。「ビジネス教育」では、体験が不足しているといわれる現代社会の生徒にさまざまな体験・経験を積ませ、社会人となるために必要な基礎的・基本的な資質・能力を確実に育成していただきたい。あわせて、実践的なスキルを身に付けさせるための「資格取得」についても、これまで以上の合格実績を望む。合格した生徒のみならず、学校全体のモチベーション向上に寄与するものとする。「部活動」も人間教育の一環として、集団や組織の中で生きるための強い心身を培っていただきたい。
- ② 外部人材の積極的な活用や学びの場を学校外にも設定すること、また、他県の先進的な商業高校との交流など、従来の学びの枠やスタイルにとらわれない多彩な学習活動の展開の継続・発展を望む。
- ③ 生徒の進路先決定100%の維持を望む。そのための教職員による組織的な進路指導体制の維持・発展を望む。
- ④ 「鳥商デパート」の継続・発展を望む。これは、他校にはない独自の教育活動である。仕入れから対面販売まで、ビジネス感覚が涵養される貴重なものであり、また、地域の方々からの期待も非常に大きい。ぜひ、継続・発展を望む。
- ⑤ 規律ある学校風土の維持を望む。生徒は挨拶をしっかりと行い、遅刻や欠席も極めて少ない。制服も正しく着こなし、校内の清掃も行き届いている。このような規律ある学校風土があるからこそ、生徒も教職員も真摯に授業に臨める。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学校の将来ビジョンの構築とその共有を教職員間で図る必要がある。県内唯一の単独商業高校という独自性を有しつつも、少子化や高校再編等の事情を勘案するならば、学校のプレゼンスを再確認し、将来の学校のありようを教職員が考えていく必要があると考える。
- ② 授業アンケートを見直す必要がある。アンケート項目の見直し・充実や教員へのフィードバックの方法の再検討をしていただきたい。日々の授業における改善指向は欠かさないものといえる。平成23年度第三者評価の改善事項にも挙げられているが、継続して、生徒の現状を真摯に受け止め、授業改革に活用していただきたい。あわせて、教職員アンケートも実施されると、自身の実践の省察が可能となる。
- ③ 保護者や地域の要望を積極的に収集する仕組みを構築する必要がある。保護者や地域の声を受け身で待つのではなく、例えば、アンケートを実施するなどして、潜在的な要望を掘り起こしていただきたい。
- ④ 図書館利用の充実を図る必要がある。図書館を授業で利用するだけにとどまらず、生徒の読書の習慣化を促し、主体的に利用するように努めていただきたい。